

(10) 西土佐中学校

学 校 長 黒岩 惣一
校内研究代表者 福田 千恵

1. 研究主題 「生き方につながる豊かな学力の保障」

2. 主題設定の理由

本校は生徒間で伝承されている「西中魂」が学校生活全般で息づき、真剣に授業に向かう姿勢が定着している。その良さを生かすとともに、生徒集団や個々の生徒の課題を克服し、全ての生徒が自分の望む進路実現に主体的に向かえるよう支援するためには、生徒一人ひとりの学習状況を複数教員で見取り、全教職員で共有すること、全教育活動における学びのつながりを意識して授業を質的に向上させることが必要である。そこで、今年度は、チーム会での協議を核とし、教師間で互いの実践に学び合う「チーム西土佐」の構築を図っていく。組織として、生徒一人ひとりの良さを伸ばしながら、教育活動全体で言語活動の充実を推進し、今求められている「主体的・対話的で深い学び」を追究することが、どの生徒にも豊かな学力を保障することにつながると考え、本主題を設定した。

3. 研究の進め方と方法

〈研究仮説〉

(1) 授業と西中タイム、家庭学習とのサイクル化を行い、基礎基本を繰り返し学習させることで、基本的な事項の定着が図れ、授業がより深まるだろう。 〈基礎基本の定着〉

(2) どのように表現すればよいかの型を示すとともに、表現(話す・話し合う・発表する・書くなど)の場を多く設定し、適切な評価活動(教師から、生徒から、生徒相互で、外部から)を行うことで、生徒は自分の言葉で自信をもって表現することができるようになるだろう。 〈言語活動の充実〉

(3) 週に1度のチーム会を定例化し、教科間で「資質・能力を働かせた言語活動」について自由な協議を重ねることで、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善が推進されるだろう。

〈教科間連携・OJT〉

(4) 授業づくりを推進する『チーム会』、「知」「徳」「体」の向上を計画的に推進する『研究部会』、企画・計画した内容を生徒指導に落とし込み、生徒の主体的な活動を創造する『学年会・生徒会・部活顧問会』(学級活動・生徒会活動・部活動)が連動することで、学校全体で行う教育活動が教育目標の達成に向かっていくだろう。 〈カリキュラムマネジメント〉

(5) 特別支援の視点を大切にし、日常的に生徒情報を共有しながら生徒指導をすることで、どの生徒も安心して学校生活を送ることができるだろう。 〈不登校対策〉

4. 研究内容及び今年度の取組

(1) 基礎基本の定着

西中タイム・・・朝読書、朝学習

朝学習は国語(漢字)・数学(ドリル)・英語(リスニング)

月・水・木に反復練習し、金に確認テスト

(2) 言語活動の充実

NIE活動・・・毎週末に新聞スクラップを課題とする。火に学級で発表。月に1度は全校でも。

全校集会・・・全校生徒がいずれかの生徒会専門部(執行部、学習部、文化放送部、環境部、保健体育部)に所属。各専門部からの発表は部員が順番にあたる。発表は全て暗記して行う。

(3) 教科間連携・OJT

年間計画をもとに、毎週水曜日の時間割に位置付けたチーム会と合同チーム会で授業改善に向けた授業研究を行う。最初の合同チーム会で「自信と根拠をもって全員が自分の言葉で相手に伝えることができる。双方向で考えを深められる。」という目指す生徒像に向かって、「信じて待つ。任せろ。問い返す。表現活動の場をつくる」ことを確認し、目指す授業像を『一緒に考えたい授業』と設定した。

①研究授業

全校研	2年英語（兼松教諭） 3年音楽（川村講師） 3年数学（井上教諭・水國教諭） 1年国語（福田教諭）
チーム研	3年社会（國澤教諭） 2年理科（井上教諭）
公開授業	3年英語（和田教諭）初任者研 特別支援学級（栗本教諭、中山教諭、和田教諭）

【研究授業の流れ】

- 〈事前〉① 2週間前までに指導案作成・配布
② チームでの指導案検討会 ⇒ 指導案修正
③ 1週間前までにチーム内で模擬授業 ⇒ 指導案修正 ⇒ 指導案完成
- 〈研究授業〉① 『授業を見る視点』を中心に生徒の言動を記録しながら参観
② 成果と課題を付せんに記入
③ 授業者は授業後に「授業の振り返り」（生徒用アンケート）を生徒に配布・回収
④ 授業者と参観者は「授業力チェックシート」（授業者・参観者用アンケート）に記入・提出
⑤ 研究主任は授業の様子と板書を写真撮影、アンケートを回収
- 〈事後〉① 研究協議
Ⅰ 授業者が授業の振り返り（成果と課題）を発表
Ⅱ チーム協議（付せんをはりながら…指導案拡大法、KJ法など）
※ 自分たちがよりよい授業の創造のために出した案がどうであったかを、個々の生徒の具体的な姿（発言、発表、つぶやき、話し合う様子、記述、使用している言葉、表情・うなずき など）をもとに協議する。
Ⅲ 発表 ⇒ 質疑応答 ⇒ まとめ（チーム長）
Ⅳ 振り返り『わたしの授業改善』記述 ⇒ チーム内で共有 ⇒ 発表（チーム長）
② その他
個々の『わたしの授業改善』は、目指す授業シートにはり、翌日からの授業改善に生かす。授業者は研究授業の振り返りシートを作成する（アンケート結果を使って）。研究主任は校内研だよりを作成する。

※指導案検討会・・・指導案には、研究主題・新学習指導要領の趣旨（見方・考え方を働かせる言語活動の充実）に照らして『授業を見る視点』を明記する。授業者は指導案検討会までに次のものを全員に配付する。指導案、授業に必要な部分の教科書のコピー、使用するワークシートなど、本時に関わる学習指導要領解説のコピー（線引き）

- ・10月5日と1月27日の2回、組織づくり講座を開催し、授業とチーム会を公開した。

②日々の授業を見合う

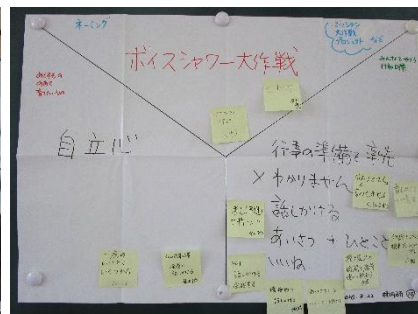
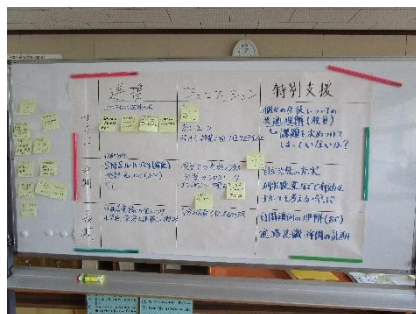
- ・授業を見合う週間の設定
- ・チーム会で小学校の授業参観

授業を見る視点	
Aチーム	「授業規律」学びに向かう姿勢ができているか 「特別支援」一人ひとりに応じて要支援生徒とともに学べる指導ができているか
Bチーム	「主体性」 1 年・・・聞く意識をもっているか 2・3年・・・自分ごとになっているか

	授業者・・・意識してその場面をつくっているか
小学校へ	授業規律、学習環境、発問

- ・学年部でローテーション道徳（T1を輪番にし、学年部全員で授業をする）

- (4) カリキュラムマネジメント
- ・ワークショップ型校内研



報告・提案 ⇒ 成果と課題 ⇒ 改善策 ⇒ 実践 ⇒ 振り返り のPDCAサイクル

- (5) 不登校対策

- ・日常的な生徒の情報共有 ⇒ 課題解決に向けてチームであたる
- ・特別支援コーディネーターを中心にスクールカウンセラーと連携（支援会）

5. 今年度の成果と課題

- (1) 成果

- 本校独自で作成した「教科間連携アンケート」において、全ての項目で肯定的な回答が100%になった。年度当初と年度末との比較によると、『6 チーム会の取組は授業改善につながっている』は達成率87.5から95に向上した。『10 西土佐中学校ではOJTが機能していると感じている』は85から92.5に向上した。チーム会での「指導案検討⇒模擬授業⇒事後協議⇒わたしの授業改善」のサイクルが機能したこと、日常的に授業を見合う機会が増えたことが要因と考える。
- 年間3回実施した生徒への「授業アンケート」の授業満足度において、目標の全教科80%以上は達成できなかったものの、年度当初と年度末の比較において、全ての教科で数値が上がっている。全教員が真摯に生徒の声に耳を傾け、チームで課題克服にあたり、授業改善に努めた成果である。
- 西土佐小学校との間で授業参観の機会が増え、連携が進んだ。西土佐小学校の研究授業後の協議にも参加することで、学ぶことが多かった。新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に向け、西土佐小学校の指導案を参考に、新しい形式を提案することができた。
- チーム長として数学科の若い2名が活躍し、責任をもって協議を進行し、協議内容をまとめ、研究推進に尽力した。

- (2) 課題

- 教科間が連携して授業改善を推進する場合、教科の専門性に係る部分では限界がある。教科の専門性に係る部分の研究は教科サークル等に委ね、指導主事の指導を仰ぐこととし、校内の授業研究に係る部分では、目指す生徒像に照らした授業での生徒の姿をもとに協議を深める必要がある。来年度の授業研究では改めて目指す生徒像を明確にし、それをもとに授業を見る視点を定め、指導に当たる。
- 学力課題に焦点化した取り組みが必要である。学力向上プロジェクトを立ち上げ、具体的な克服課題を明確にして全教員で取り組む仕組みを作る。
- カリキュラムマネジメントの視点から総合的な学習の時間の年間指導計画を見直す。